

平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果について

桶川市立加納中学校

はじめにお読みください。

＜調査の結果をご覧になる方へ＞

桶川市教育委員会

本市各小・中学校では、全国学力・学習状況調査（以下、調査とする）の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体で学習への取組状況等を把握しております。また、平均正答率等、学校全体で情報を共有するとともに、分析を実施して自校の取組等の成果と課題を明らかにしております。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。



調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせすることは、学校と保護者及び地域の皆様が情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、児童生徒の学力向上の取組を一層充実させることにつながると考えております。

したがいまして、調査の結果をご覧になる皆様方には、前述いたしました公表の趣旨をご理解いただくとともに、以下の点にご留意くださいますようお願い申し上げます。

- (1) 調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。（【全国学力・学習状況調査の概要】を参照してください。）
- (2) 平均正答率などの数値だけでなく、学校での分析や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 調査で測れるのは、①国語と算数・数学など学力の特定の一部分であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解の上、ご覧ください。

【全国学力・学習状況調査の概要】

※「全国学力・学習状況調査 調査リーフレット」（文部科学省）より抜粋

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

3 調査実施日

平成26年4月22日（火）

4 調査の内容

教科に関する調査 (国語、数学)	主として「知識」に関する問題 (A) ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ② 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など	主として「活用」に関する問題 (B) ① 知識・技能等を実生活の様々な場面で活用する力 ② 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など
	【国語A・数学A 各45分】	【国語B・数学B 各45分】
生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査	児童生徒に対する調査 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語の勉強は好きですか、授業の内容はどの程度分かりますか、一日にテレビを見る時間、読書時間、勉強時間の状況 など	学校に対する調査 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上や学習の定着に向けた取組、習熟度別少人数指導、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況 など
	【20分程度】	

本校の調査結果の概況

<国語A>

学習指導要領の領域等	設問数	本校の平均正答率	県の平均正答率	全国の平均正答率
話すこと・聞くこと	4	74.0%	72.9%	72.3%
書くこと	6	84.6%	84.1%	83.4%
読むこと	5	83.3%	83.9%	82.9%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	79.1%	78.0%	78.7%

<国語B>

学習指導要領の領域等	設問数	本校の平均正答率	県の平均正答率	全国の平均正答率
話すこと・聞くこと	0			
書くこと	3	43.4%	41.7%	41.0%
読むこと	8	48.9%	49.9%	49.2%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	55.7%	56.7%	56.8%

<数学A>

学習指導要領の領域等	設問数	本校の平均正答率	県の平均正答率	全国の平均正答率
数と式	12	73.2%	76.4%	77.4%
図形	12	64.8%	65.6%	66.4%
関数	8	52.3%	56.4%	58.0%
資料の活用	4	51.2%	56.5%	59.1%

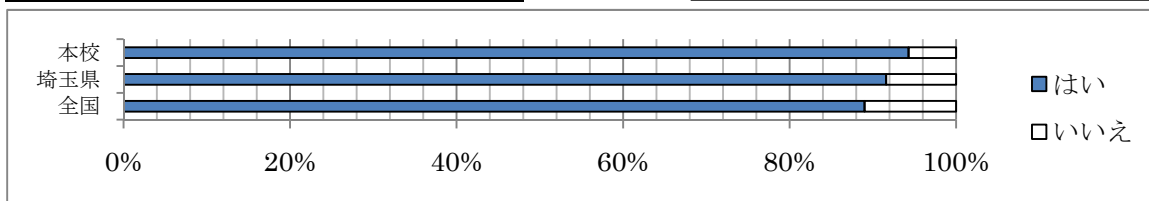
<数学B>

学習指導要領の領域等	設問数	本校の平均正答率	県の平均正答率	全国の平均正答率
数と式	3	52.2%	54.8%	56.9%
図形	5	57.9%	58.9%	58.6%
関数	5	66.9%	64.0%	64.4%
資料の活用	2	56.1%	54.9%	55.9%

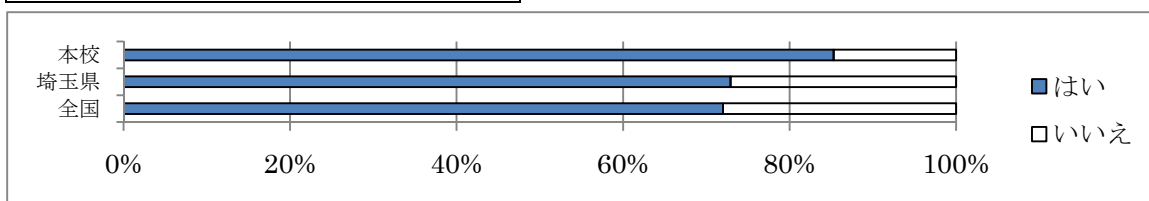
<生徒への質問紙調査>

はい…そう思う、どちらかといえばそう思う
 いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思うわない

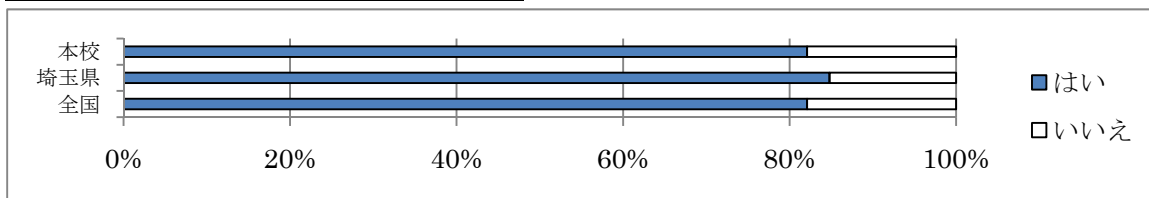
国語の勉強は大切だと思いますか。



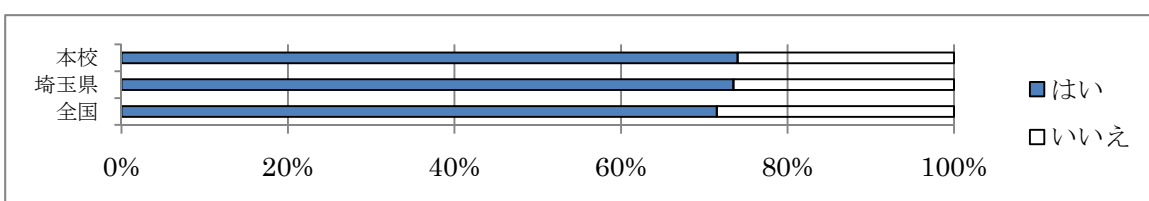
国語の授業内容はよくわかりますか。



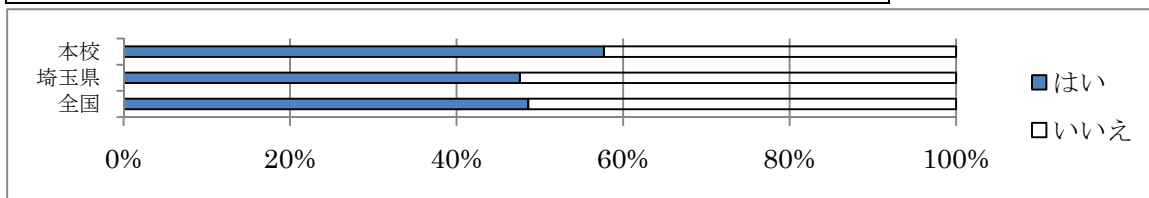
数学の勉強は大切だと思いますか。



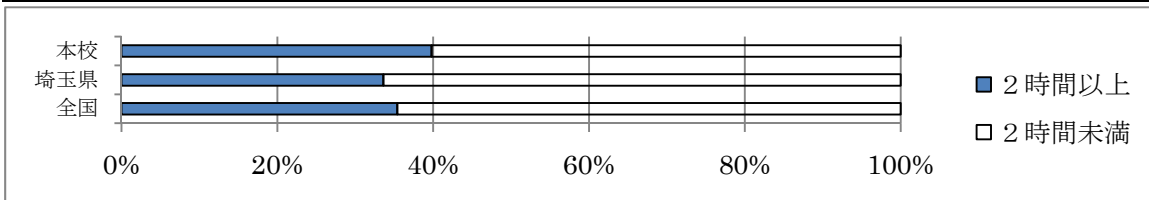
数学の授業内容はよくわかりますか。



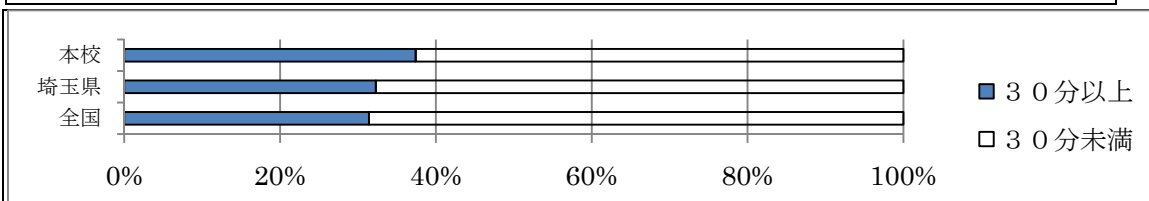
※ 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。



※ 普段、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使用していますか。



※ 学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか。



本校の調査結果の分析・考察

<国語A> 主として知識

【領域別の分析】

A問題では4観点（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」）に関して出題されました。

加納中は全国・県平均と比較して、「読むこと」のみ県平均を0.6ポイント下回りましたが、他は全て上回っています。

【問題1 一】

問題

報告会の中でプレゼンする言葉に対して使用したフリップの効果を適切に説明しているものを選択しなさい。

正答

2 話の内容を簡潔に示す。

<分析>

正答率

加納中	埼玉県	全国
82.0	78.4	78.6

授業の中で「文章を要約する」「見出しを作る」ことを学習したことが高い正答率につながったと考えられます。

【問題2 二】

問題

提示された絵をもとに創作した物語（友達とけんかした物語）についての問題。仲直りができたうれしさを印象深く伝えるために表現を記述する。

正答

僕はうれしくなった。
→僕の心は（軽くなった）。

<分析>

正答率

加納中	埼玉県	全国
78.7	79.4	79.8

表現を一つだけでなく、推敲することを習慣づけることで正答率が上がると考えられます。無解答率が高かったことも課題です。

<国語B> 主として活用

【領域別の分析】

「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の中で、「書くこと」のみ県・全国平均を上回りました。

【問題2 一】

問題

左記と同じ。

本の内容とインターネットの内容を要約した文を比較し、合っているものを選択しなさい。

正答

2 接着剤の用途について、【本の一部】では意外なものに使われていることを述べ、【インターネットの情報の一部】では使用場面ごとに項目を立てて具体的に述べている。

<分析>

正答率が県・全国平均を5ポイント下回っている。文章を要約する力は、読解の基本ですので、授業内でも確認していきます。

【問題2 三】

問題

接着剤について書かれた、本とインターネットの情報の一部を読み答える問題。

封筒に貼ってある切手を水の中にしばらく浸しておくと、きれいにはがすことができるようになります。その理由を条件にしたがって書きなさい。

正答

切手を水に浸すことで、固体となっていたのりが液体となり、アンカー効果がなくなるから。

<分析>

正答率は県・全国平均を上回り、無解答率は下回っています。授業内で「理由や根拠を考えて書く」ことを行った結果と考えられます。

<数学A>

【領域別の分析】

数式・表・グラフなどが何を意味しているのか問われている問題は、正答率が県・全国平均を上回っているものが多いです。しかし、すべての問題に対して無解答率が高いことが大きな課題です。

【問題 6 (3)】

n 角形の内角の和を表す式

$$180^\circ \times (n - 2)$$

の $(n - 2)$ は多角形において、何を表しているか

正答

1つの頂点からひいた対角線によって分けられた三角形の数。

<分析>

文章・図・数式など複数の領域が混ざった問題には対応できないことが課題です。

【問題 12】

問題

二元一次方程式のグラフから、2つの方程式を組み合わせてできる連立方程式の解である座標の位置を選ぶ問題。

正答

連立方程式の解は、2直線のグラフの交点を表している。

<分析>

グラフと数式の関係を理解している生徒が多いため、正答率は県・全国平均を上回っています。関係づけた授業を繰り返したことが成果だと考えられます。

<数学B>

【領域別の分析】

全体的に無解答率が低く、正答率は県平均を上回っています。既習内容を組み合わせ、応用問題に対応できていると考えられます。

【問題 2 (1)】

問題

m, n を整数とすると、2つの偶数の和は

$$2m + 2n = \square$$

$m + n$ は整数だから \square は偶数である。したがって、2つの偶数の和は偶数である。

正答

$$2(m + n)$$

<分析>

数式や文字を使った説明を理解したり、自分の考えを表現することが苦手な生徒が多いです。

【問題 6 (2)】

問題

兄と弟が時間差で家を出発したとき、2人が同時に駅に着くようにグラフを作る問題。

正答

2人が同時に駅につくようにするには、兄は弟が出発して4分後に家を出るようにする。

<分析>

グラフを読んだり、かく活動をしたことによって、直線のグラフの傾きや交点の意味を理解できたので、条件に合うグラフを選ぶことができたと考えられます。

<質問紙調査から>

<p>【質問（7）】</p> <p>質問 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。</p> <p>回答結果 「はい」と答えた生徒の割合 本校 57.7% （県+10.1 国+9.1）</p> <p><分析> 友達との人間関係や学級の雰囲気安定している中で学習環境が整っていると考えられます。また、文化祭や音楽会などで自己表現することが得意な生徒が多いと考えられます。</p>	<p>【質問（17）】</p> <p>質問 学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間読書を読みますか。（教科書や参考書、漫画、雑誌は除く）</p> <p>回答結果 30分以上読書をしている生徒の割合 本校 37.4% （県+5.1 国+6.0）</p> <p><分析> 朝読書の時間に静かに読書ができる雰囲気が教室内にあります。その延長で家庭でも本に親しむ生徒が多いのだと考えられます。</p>
---	---

本校の学力向上の取組

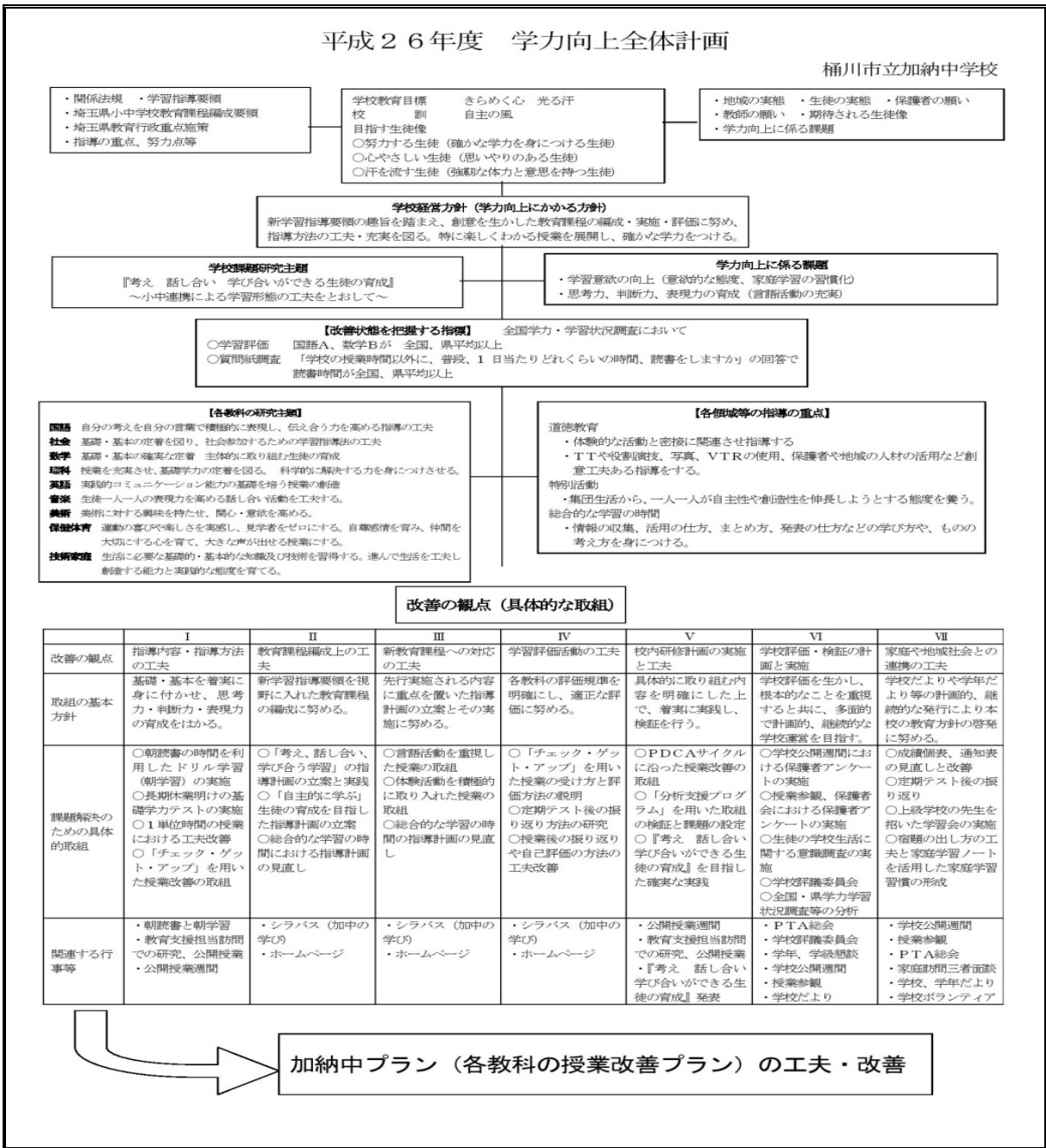
授業における取組

- ① 授業規律の明確化
 - ・教師と生徒が共通して「チャイムあいさつ」というキーワードで実践しています。
- ② 加納中型授業スタイルの確立を目指して
 - ・各教科、導入からまとめまでの思考・理解の段階を『チェック』『ゲット』『アップ』の語を用いて明確に示し、生徒に授業で学ぶ内容について見通しを立たせる取り組みを継続しています。
- ③ 『言語活動の充実』
 - ・研修会にて検討し、言語活動を重視した活動を取り入れています。
 - ・教科を越えて意見交換を行い、授業での活用例などを検討しています。

授業以外の取組

- ① 「時」「場」「礼」生徒指導共通目標の推進
 - ・「時を守り、場を清め、礼を正す」を教師、生徒の共通目標として毎日頃から取り組んでいます。
- ② 朝読書の推進
 - ・毎日朝の会の前10分間読書の時間とし、本に親しむ時間としています。
- ③ 家庭学習の習慣化
 - ・家庭学習の状況を自主学習ノートや生活ノートの提出によって把握しています。
- ④ 定期テスト前の補習の取り組み
 - ・定期テスト前には教科の質問や補習の時間を取ります。
- ⑤ 「考え、話し合い、学び合う学習」推進事業 推進協力校（南部地区 加納中ー加納小）としての「学力向上」に向けた実践をしています。

本校の学力向上プラン



保護者・地域の皆様へ

加納中学校では、「規律ある態度」に関して「チャイムあいさつ」という行動規範を生徒・教師一丸となって励行し、習慣化しています。落ち着いた学習環境のなかで、授業への集中度をあげていきたいと思っています。授業内容のさらなる定着のために、家庭学習の習慣化が今後の課題だと思われます。ご家庭のご協力をお願いします。